

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

(平成 26 年 12 月 9 日 午前 11 時 05 分)

●議長 (小林幸雄) 休憩前に続き、会議を開きます。

通告の 2 北村照明議員

1. 町長が目指す町づくりは
 2. 郷土芸能の保存について
- 議席番号 12 番・北村照明議員。

◆12 番 (北村照明) 議席番号 2 番・北村照明です。2 件の通告がありますが、郷土芸能の関係においてはちょっと宗教的な関わりもありますが、いずれにしろ郷土芸能ということで考えて答弁をお願いしたいと思います。

まず 1 番でございますが、町長が目指す町づくりは、ということでございますが、町長がこの選挙において見事当選されまして、横川町長が目指す、今まで 8 年間温めてきた町づくり、これからどのような町づくりを進めていくのか、まずその辺の町長の思いをお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 北村照明議員さんにお答えをさせていただきたいというふうに思います。私実は、この信濃町で、ちょっと恐縮ですが職員生活も 38 年やらせていただきました。そしてまたその中で特別職も経験させていただきました。その後 8 年ほどまた、民間の経験もさせていただいたわけでございます。そういう中で、全体を通して昨今のこの信濃町の町内の状況といいますか、こう見ている時に、大変いろいろな面で、ちょっと言葉が悪いかもしれないですが、疲弊とまではいかないんですが、ちょっと沈滞してきているなど、こういう思いで、その一つがですね、私も訴えさせていただきましたけれども、やっぱり町が活力を持つ、そういう方向を考えた時に、一番はやっぱり源は人口であると、いうふうに思ったところでございます。そしてその活力ある町づくりを進めるという意味で、現在 9120 名ぐらいの住民基本台帳上の人口になっておりますが、これ毎年ですね、今の状況になりますと、150 人ほど人口が減っていくという近年の状況下にあるわけでありまして。そしてまた、当然その中身の要因としても、昨年 1 年間で子供さんが 32 人しか、しか、という言い方大変失礼かもしれないんですが、が、お生まれになっている。極めて少ない数字になってきているな、これを先ほどの活力ということを前提として考えた時に、何としてもこの人口減少というものの減少率を、何とか抑えていかなきゃいけない。人口増にするということは日本全国、そしてまた長野県、他の町村も、特殊な町村を除いてなかなか難しい時代に入っている、そういう中で活力ある町づくりを進めていきたいという思いでございます。

そしてその、第一点が、先ほどもちょっと関連したご質問にお答えさせていただきましたが、何とかその人口減少を抑えるには、やっぱり町をもうちょっと全国の皆さん方

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

にも知っていただき、そして町自体の良さを、私ども住んでいる人間もですね、住民もその良さを、自信を持って生活できる、そういう方向でないと、なかなか人口移住促進にしても、そういう方向性にはつながらないということがあるかなというふうに、私自身思っています。そういう中で当面、その人口減少対策というものに対して、まずもって組織的な設置と言いますか、担当窓口を置かせていただいて全国発信をしていく、そういう方法を整えて、いろいろな政策等々を進めていきたい。ちょっと大変抽象的な言い方で議員に失礼かと思いますが、今、この時間で申し上げる部分については、そういう考えを基本的に持っているということでご理解をいただければというふうに思います。よろしくどうぞお願いします。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) 只今町長の方から答弁がありました。まず一番に取り組む、一番真っ先の課題は、新聞報道等にもありましたが、人口減少を何とか食い止めていきたいと、そういう対策を取るということによろしいわけですね。お願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 基本的にはその事を最重要課題として、訴えもさせてきていただいておりますし、私自身、その事がこの信濃町の将来の活力の維持にもつながるという思いで、その事をまずもって取り組みをさせていただきたいというふうに思っています。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) この人口減少問題は、どこの町村も、皆もうこれが一番きっと課題になってきていると思います。県から始まってどの町村も、皆そのようなことで取り組んでおると思いますが、町長の公約にもありますが、移住促進係というのを、そういう担当、窓口の担当を設ける、ということがありましたが、この移住促進係というのは単に移住促進だけの、人口を増やす、何とかする、という係によろしいのでしょうか。その係は、今の若者が結婚しないから結婚の何か、そういう男女のふれあいの場所を作るとか、いろいろ人口増に対しては考えがあると思うんですが、促進係というものは、ただ単によそから来る人を何とか引っ張って、町内に住ませるような方策を考える係というふうに考えて良いのでしょうか。その辺をお聞かせ下さい。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今の段階で中心的に考えているのは、いわゆる情報発信も含めて町外からおいでいただくような、行政の営業マン的に進めたいというふうに思っているん

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

です。おっしゃられたようにそれだけで済むかということがあるわけですが、その辺もこれからの中でしっかりと考えて、事務分掌もまとめていきたいというふうに思っております。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) 今、町長が考えているその窓口というものは、何課に置いて、何人ぐらい窓口の係に対応する人を配置するか、町長の考えている範囲でよろしいんですが、お願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今非常に頭を悩ませているところでありまして、どこにどういうふうなセクションで置くか、そしてまた何名ぐらいの体制にするかということも含めて、今一生懸命、申し訳ありません、頭の中でひねっているところでございますので、また、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) 今、盛んに考えているという時期だそうなので、まだこれからいろいろ聞きたいことがいっぱいあるんですが、そこまではまだ質問しないで、またそういう係ができた、いろいろな活動するようになる時期になったら、またその辺について質問したいと思いますが、なるべく早く、こういう係を設けて、よその町村にも負けず、早く人口減の対応ができるように町長に要望しておきます。

それから、政策の中に若者会議を設置して、ということがあります。町のいろいろね、町づくりにいろいろ意見を出してもらって、これからのことを考えるということでございますが、私も、これからはそういう若い者の考えを大いに取り入れて町づくりを進めていくべきであると思ひます。私も大いに賛成でございます。前町長も囲炉裏端会議を開いて云々なんて言っていたんですが、こういう若者会議も確かに大事ですが、各集落へ出向いて、集落の皆さんに集まっていただいて、いろいろお話を聞くと、そういうような考えはありますか。私なり、議員の皆さんに「私この日は都合が良いので是非、会場と通知を皆さんにさし上げて、集まってもらえば私が行ってまた、いろいろ皆さんに意見を聞く」と、そういうようなことも、私は大いにやってもらいたいのですが、町長はどう考えておられますか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 私自身何と言ひますか、スタンスとして、要するに町民の皆さん方

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

と、いろいろな方が、いろいろなご意見もお持ちでございますので、幅広くいろいろなご意見も頂戴して、まさにその対話をしながら町政を進めていきたいというふうに思っています。今ご提案といいますか、ご指摘もいただきました、各地域、あるいは各団体等々も含めて、積極的に私自身も中に入り込んでいきたいなというふうに思っております。

特に今、若者会議ということで、あえて私は今回の公約の中で、若者会議ということ を挙げさせていただきました。当然、そういう全体バランスの中で、高齢者の皆さん方、そしてまた女性の皆さん方、等々それぞれの皆さん方のご意見をお聞きするという ことも前提としつつ、あえて若者会議というふうに申し上げさせていただいたのは、これは なかなか従来の中で、比較的若い皆さん方から町政に対していろいろなご意見を頂戴す るという機会があまり無かったかなと、自らの反省も含めてそういうことで、将来を背 負って立つその皆さん方のエネルギーというものを、やっぱり町政にも反映させていき たいと。そして、それを先ほど申し上げました活力というのものにも何とかつなげていく。 そういう思いで、若者会議というものをあえて申し上げさせていただいてございます。 いろいろな各種団体、集落の皆さん方等々含めて、積極的にいろいろなご意見を頂戴す る機会については、私自身も積極的に参加をさせていただく。そういう方向でいきたい というふうに思っています。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) それで若者会議というその、町長がこれから作りたいという考えで ございますが、早急に立ち上げますか。いつ頃、こういう若い皆さんを集めているいろ いろお話を聞くと、そういうようなことを、いつ頃やるのか、また町内大体何人ぐらいの皆 さんに集まっていたか、町長の今考えている内容で結構ですので、お願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) できるだけ早めにとということで、今の段階では申し上げられないん ですが、そしてまたやっぱりこの広く、信濃町全体の今の住んでいる皆さん方の気持ち、 あるいはそこにひょっとしたら、町内に限らず町外からもご参加いただけるということ も、私は、それもあってもいいだろうというふうに思っているんです。そういうことも 含めて具体的にどういう内容を、どういうふうないろいろな、会議と言いますと大変堅 苦しくなるものですから、そのことも含めて、どういうあり方で進めるのがいいかとい うことを、また事務局とも打ち合わせをさせていただいて、今申し上げましたように出 来るだけ早めに、そういうことを進めていきたいというふうに思っています。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

◆12 番 (北村照明) 良いことはなるべく早く段取りをして、進めていっていただきたいと思えます。

それから、先ほど荒井議員の方からもありましたが、病院の問題ですね。今まあ町では一番、病院と人口減が、最大のもの、今問題になってきておるわけでごさいます、選挙中の街頭演説でも町長は、頭金ぐらいはなんとか積んでおかなくちゃいけないと、しっかり皆さんに打ち上げて説得して、町長になったわけでごさいます、さてその頭金をいつ頃から積みだすかと、町長の考えをお願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今のその頭金といいますか、行政的に言えば基金ということになるかと思えます。その事については出来るだけ早めにとということなんですが、極端な話、早ければ議会の議員の皆さん方にもご理解いただければ、今年度末の対応からでも出来ることであれば、そういう方法で進めたい。しかし状況を考えると、新年度というのが一つの位置付になるのかなというふうに思っております。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) まだ、あの、病院の関係もいろいろ聞きたいんですけど、先ほど荒井議員からもありましたので病院の関係はこの辺にしまして、私も農業でございしますので、町長のその農業関係の公約について、お聞きします。

農業公社の設立ということも町長は公約に掲げてありますが、この農業公社の設立というのは前町長もこの場で約束をしまして、来年度立ち上げるというような約束をしましたが、前町長も、具体的などという公社にするかというような考えまでは示さなかったんですが、横川町長はどのような農業公社にしていこうと考えておるんですか。その辺の考えをお願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 私自身、今大変、この町内の中での農業問題と言いますか、議員さんも大変な面積を営んでおられますが、認定農業者の皆さん方が 70 数名、80 名、これから制度改正で面積要件が無くなりますから増えていくのだらうと思えますが、しかし今までのそういった要件の中で、認定の農業者の皆さん方を中心にして今の国の新農業農村政策という中で、どんどんどんどん面積拡大をしてやって来られている。大変、私の町としてもですね、ありがたいことだと思うんですね。その反面、その皆さん方が大規模化をどんどんやっていて、万が一の時に、逆に一挙にその農地が荒れてしまう。極端な話、耕作が出来ない状況になってしまうということも、想定をしなきゃいけないだらうというふうに思うんですね。その時にどういう方向で、町として、行政として、

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

農業を守るかということと、それからやっぱり町土である農地を守る、この原点が、私はこれから必要なんだろうと思う。その方向を考えた時に、農業公社ということをお私に言わせていただいておりますが、公社を一番の前提として考えつつ、その地域地域の中で農業を営んでいる皆さん方が、「いや、もっと他の対応があるよ」と、こういうお考えもあるかもしれません。その事をやっぱり、主は農地農業を守るという意味でその方向で考えていきたいというふうに思うんですが、要は、基本的に大勢の農業従事者もおられるわけです。そういう、いろいろな皆さん方のご意見も頂戴して、公社として成り立つかということをお、本当に慎重に考えないと、私の公約である公社設立ということが、ただただ絵に描いた餅でスタートするようなことがあってはならない、後々にしつかり、やっぱり責任を持てる組織として成り立つような状況でないといけないということをお前提としつつ、その辺をお充分、関係の皆さんとも検討させていただきながら進めたいという考えでございます。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) 今町長の答弁がありましたがお、早い話が 10 町歩やっている人が、ちょっと今年体調を崩したと、そうなると、今度は土地の振り分けですね。今現在で精一杯やっている人のところへ、是非少しづつお願い、と言っても、なかなかこれ、本当に今厳しい、もう来年の作付もままならないようなお年寄りの方もおるんで、その辺も町長もいろいろ考えてはいると思いますが、立ち上げたからうまくいってもらわなくちゃ困るんで、立ち上げてそのまま毎年毎年赤字、赤字じゃとても公社の役割も立たないし、町の負担も増えるということでございますので、その辺も慎重に考えてね、前町長は、今年中に、とは答弁したんですが、これ本当に大きな問題で、どういうふうに立ち上げていくかということも本当に、考えれば考えるほど面倒になってくると思いますので、なるべく早くはお願いしたいんですが、慎重に進めていただきたいと思います。

それから、鳥獣害対策も充実を図る、というようなことがありました。今信濃町は、クマから始まってイノシシ、シカ、サルですね。信濃町の人口は減っても、そちらの方の頭数は増えるばかりで、毎年毎年被害が増えるばかりで、少なくなるようなことがないんですが、充実を図る、という、その充実ということは、どのような、今までは電柵、電気牧柵の補助等を行っておりましたが、今回の町長の充実を図る、というそのことは、どのような策を考えているのか、お聞かせ下さい。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 鳥獣被害については、先日ですか、担当課長からも今年の被害状況報告がございました。クマが全部で 28 頭、あるいはそのイノシシ云々という被害状況の報告がございまして、その前年比よりも大変多くのお出没と申しますか、捕獲も含めてあるわけですね。特にまた地区によっては、私もこういう立場から全町を回らせていただ

いて、土地を見た。イノシシの被害が非常に多くなってきている、こういう状況も見て
いるわけですね。さっきのあの、猟友会の皆さん方ともお話をさせていただく機会がご
ざいまして、猟友会のメンバーそのものも若干減ってきている。片や、いろいろな対象
物が増えている、こういう反比例の状況ですから、そこに対して、町民の皆さんが自ら
どういうことが出来るか、今の電気柵や何かの問題もあると思うんですよね。その辺に
ついては、若干、もうこうなってくると補助率的なものも含めてですね、自己責任の分
野としてやっていただくその努力は自分でやっていただくにしても、その負担を若干で
も経費軽減できるような方法も考えていかなきゃいけないのかなど。合わせて猟友会の
皆さん方が、このままいきますと猟友会の皆さんも、それはあの、若い皆さんも若干入
ってきております。まさにこの有害鳥獣といいますか、駆除をしていただく一番の前衛
部隊がそういう状況になってきているということをごすね、本当に、将来を考えた時に
危惧をしているわけでありまして、その猟友会の皆さんの活動に対して、どういふ
支援体制もできるかということも含めて、猟友会の皆さんとも相談をさせていただき
進めたい。これも一つは、もし緊急対策的にやるのだとすれば、職員も驚くかもしれ
ないんですが、私は担当部署の中で、少なくとも畏の、狩猟畏っていうんですかね、い
わゆる免許の関係はありますけれども、そういう部分も担当しても良いのじゃないかな
という部分、これは、やるかやらないか、まだあの、あれしてませんがね。そういうこ
とも含めて対応していかないと、いよいよ大変な鳥獣被害対策になってくるなど、いう
ことをございしますので、今申し上げたような方法で、またあの、ちょっといろいろなこ
とを進めたい。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) 今の猟友会の関係も、もう高齢化しておりまして減少の一途とい
うことをございまして、これから新規に免許を取りたいと、そういうような方には、町で
少し補助等を出したり、いろいろ援助してもらいたいと思いますが、町長はその辺の考
えはどうでしょう。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) ちょっと具体的にそういうふうな話をされましたので、私、腹の中
では実はそういう方向も検討しなきゃいけないのかなと思っております。具体的にどう
いうふうにするかというのはあれなんですけど、今、猟友会の方に、いわゆるクマ1頭
いくら、あるいはイノシシ捕獲1頭いくら云々ということで、契約の中でお願いしてい
る。猟友会のメンバーは確か21人か22人だと思っんですよね、そういう皆さん方が免許
更新、あるいは新たに新規取得する、それなりのいろいろな面で費用も掛かるわけ
です、その辺がいわゆる町として支援できるのかどうなのか。その辺も含めて、また検
討させていただきたいと思っんです。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) それと町長の地元である高沢、また妙高関川を挟んでのサルのおせめぎ合いでございますが、あっちで追えばこっちに来る、こっちで追えばあっちに行くというようなことで、関川を挟んで、信濃町は山桑の皆さん、それから高沢の皆さんが大変苦労しておるんですが、サルがこっちの方へ入って来ると、これまた非常に害を及ぼすと思いますね。クマとかイノシシも電気は効くんですが、シカも電気は多分恐らく効くと思うんですが、サルというのは割合跳躍力があつたり、電気柵を廻しただけじゃ、とても防げないということでございますので、サル対策は、町長どのように考えておりますか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 私自身毎日、シーズンになりますと家でサル対策をやっておりまして、しかしなかなかサルの行動については、専門家的にも難しいようです。実は私ども集落のところに、ちょっと自分のことを言って大変恐縮なんですけど、高沢という集落のところに、前々からサルが出る。そしてまた関川水系で赤川、熊坂、柄山、あの辺もサルの被害が非常に及んでいる。右岸、左岸、両方とも、新潟県、長野県共に、あの領域においてはサルの被害が大変多くなっている。先般私が通ったときに、山桑の集落の中にもサルが 1 頭見えました。いよいよこちらの方にまで来ているのかなと、実態として見たんですが、今、そういう面ではその捕獲檻といいますか、大きな 3 メートル・4 メートルぐらいの檻なんですけど、その檻で捕獲も含めて対応しているというような状況です。なかなかサルも利口になってきまして、あんまり餌を食わなくて、警戒してその檻の中に入らない。私もしょっちゅう見ているにですね、サルが来たなと思ってその行動、暇な時というんですか、見ているんですが、絶対開いてる檻、檻の入り口からは入っていかないんですね。あんまり旨い餌もないかもしれないんですが、そういうことを見ますと、やっぱりサルも学習しているなど、いう中でね、これを今後本当にいわゆる人間に対する危害もそうですし、農作物に対する危害から守るためにも、どういうふうにしていくかというの、また専門の方の県等々とも相談をさせていただきながら対応してまいりたいと。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) それでは産業観光課長にお伺いしますが、今、サルも大変利口になったと。それでこの間ちょっと猟師の方にお聞きしましたら、イノシシも、何かこう針金の輪っこを置いておくと、知っていて、もう絶対そこを通らないと。動物は匂いで分かるのか何で分かるのか、金物のそういうものがあるところは、絶対避けていって通らな

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

いということございまして、イノシシもなかなか畏をかけてもかからないわけですね。あれもね、利口者でもう。担当課長として、今のそのサルについてどのように考えておられますか。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) サルにつきましては、先ほど町長が申したとおり、非常に賢いというんですか、それ、檻を仕掛けておっても警戒すらしないというような感じで、そのもう、慣れた部分で、やっぱりこれから人とか農産物も多少被害があるということで、本当に専門家に相談する中で進めていきたいと思っております。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) それでは次の質問に移りますが、郷土芸能の保存ということございまして、先ほど言いました、これはお宮さんの関係で、宗教とかいろいろ関係ありますが、そういうことを一切抜きにして、芸能としてお願いしたいと思えます。

町内各地それぞれ集落にお宮さんがあって、その地区地区に特色のある獅子舞等々、無形文化財的なものがあるわけでございますが、今年の「一茶夏まつり」も、一番最後の催しに各地区の獅子舞が行なわれておりました。私も同僚議員の 1 人と一緒に、学校へ駅からずっと上がって来るところを見ておりましたが、その「はやし手」が、大変高齢の皆さんが多いのに驚いておまして、このような質問をするんでございますが、郷土芸能の保存ということについて、町長はどのように考えておられますか。まずその辺からお願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今各地域にある獅子舞をはじめとした、その郷土芸能と言われる分野であります。それぞれ大変な歴史を持ちながら、その集落で大事な位置付として、いろいろな機会に、何と申しますか、活用という言い方は失礼ですが、行動されてきたということでございます。それで現状、議員さんご指摘のように、各集落それぞれまた高齢化という問題を抱え、あるいはその、人数もいなくなってくる、こういう状況の中で、それぞれ何とか維持していただく、その事は、大変私は今後も大事なことだろうというふうに思うんですね。

具体的にどうしようかというふうに、なかなか行政的にはそこまでは手を差し伸べる状況に至らないわけですが、少なくとも神楽の購入、更新ですね、そんなような時には、一つは制度的な資金、コミュニティー資金でしたかね、等もございまして、そういう面では行政的なご支援も含めてできる。しかし、その活用する、いわゆる人というものについて、なかなか難しい状況に今入ってきているなど、今後も大変厳しい状況になっ

ていくことは見させていただいています。

先般、私本当に感激をしたんですが、24 日の日でしたか、失礼、2・3 日前ですね、議員さんの地元でございます、第 24 回の仁ノ倉区の収穫感謝祭ということで、獅子舞が披露されておりました。そこに本当にあの、背負って立つ中学生が獅子頭を一生懸命操作されている姿を見て、これは、仁ノ倉地区は頼もしいなというふうに思ったんですが、全地区そういう状況じゃないんだろうな。その事をやっぱりそれぞれの地域の中で、どういうふうな方向が取れるのか、また行政として可能な部分があるとするれば、その辺は何とか、今宗教的な問題もあるというお話がございますが、文化材的に捉えた時にどういことが可能なのかということも含めて、対応も考えさせていただきたい。具体的な事につきましては、担当でございます教育委員会の方からも、ちょっとお答えをいただければと思います。

●議長（小林幸雄） 静谷教育長。

■教育長（静谷一男） 今、子供の難しさについては、長が今答弁したとおりだと思っています。文化財的な価値をいかにこう保存していくかという部分については、昨年も「一茶夏まつり」のときに、今お話がありましたように、町内の出席できる獅子舞等については 18 地区ほど出ていただきました。非常に貴重な機会でしたので、一茶記念館の方ではビデオで保存したり、それから出演いただいた獅子の歴史についても今の長老の皆さんがいますので歴史を残そうということで、そういう資料もいただきました。そういう部分での保存はできるわけですけども、仁ノ倉地区のように若い人たちがいれば、まだ引継ぎの、獅子舞の伝統の引き継ぐという練習も出来るんですが、ことに小さな集落では、引き継ぐ世代の子供たちがいないというこの実態、その辺の問題が大きな課題があるわけですけども、何とか、いつかまた何年か後にそれを見直してやろうという気が高まった時のためにも、是非今、保存の部分についてはしっかりやっていきたいなと思っていますし、地域地域の皆さんの盛り上がりを本当に期待しながら、2 人でも 3 人でも、いる中で引き継げる部分があれば、是非引き継いでいって欲しいなというふうに期待をしています。

●議長（小林幸雄） 北村議員。

◆12 番（北村照明） 只今の町長の答弁もありましたが、道具ですね、道具は宝くじの還元とかお金で間に合いますが、本当に人のことですね、大変な時代になってきていると思います。よそはちょっと知らないんですが、柏原地区も、かつては大久保集落にも獅子舞があったわけですが、もう大久保集落も相当前からなくなったと。なくなる前に、本当はビデオか何かで保存しておけば良いんですが、多分保存等はないと思うので、町で、今あるものを何とか、各地区でお互いにビデオなりは撮っておりますが、町でまとめて撮影して保存するというような考えは無いでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 静谷教育長。

■教育長 (静谷一男) そうですね、一茶生誕 250 年の「一茶夏まつり」の時、雨が降ったりして全部撮れなかったという非常に寂しい思いがありますし、今のお話のように是非保存すべき伝統的な芸能ですので、長とも相談しながら、出来ればそんな方向を前向きに考えたいというふうに思います。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) それと、私も保存の方の一員として加わっておるんですが、あれ、笛のリズムですね、ああいうのというのは大変指の動かし方等が微妙なところがあると思うんで、私、笛部へ入ってるわけじゃないんで分からないんですが、こういうメロディ一等々を、邦楽の先生というんですかね、何かどこかのそういう先生方に、これを楽譜的に残してもらおうような、何かいい算段はないんでしょうか。ちょっとその辺、もし考えてもらってあるようだったら、是非とも楽譜みたいなものに落としておけば、今言う大先輩、この辺で言う大ごっしゃんが、もし病気で動けなくなった、亡くなったとしても、そういうのを見れば何とかかなと思うんですが、その辺どうでしょうね。またもし、もしそういうものがあつたら、検討してほしいと思いますが、どうでしょう。

●議長 (小林幸雄) 静谷教育長。

■教育長 (静谷一男) 保存の仕方についてのことだと思うんですが、非常に難しいかなと思ってる部分があります。私どもも、小さな荒瀬原という集落、30 件ほどで獅子舞を行っていますけれども、それぞれビデオ等で保存しますが、難しいのは笛だと思うんですが、笛の吹き手によって、転がし方が増えたり減ったりしますけれども、それについては、本当に正確に伝わらないという寂しさはあるかもしれませんが、ビデオを見ながら保存したものを大切にするという方法、もし楽譜等ね、形にそろえられるのであれば、またもちろんそちらのことも考えたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 北村議員。

◆12 番 (北村照明) お年寄りになってくると、獅子は獅子頭を歯でくわえるわけですよ。それで舞う人も、笛も、前歯が欠けたり、もう、歯がなくなると笛が吹けないという話を聞いております。ちょっとあの住民福祉課長に聞きたいんですが、保健師さんにその、いま人間ドックはもう、人間ドックだの色々は大いに勧めて、特定検診からやれやれと勧めているんですが、その歯の健康ですね、これ、歯は食べ物も大事なんですが、そういうところも関わってくるので、歯の健康ということは町としてどのようなふう

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録(2 日目)

考えているのか、その辺もお願いします。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長（高橋博司） それではお答えいたします。歯の健康に関してということですが、来年度から、出来れば歯科の検診についても、検診の中に取り入れていきたいということで考えております。その経過と申しますと、国保運営協議会という会がございますけれども、その中に、歯科医院の先生にも入っていただく中で、様々な情報をいただいておりますけれども、歯の健康が他の疾病等にも影響があるという事。また長野市など、後期高齢者の方々に対しましても実施をされているところもありますし、またこれから実施が検討されているところもありますので、当町におきましても、これから予算要求、積み上げ等させていただく中で、またあの予算をお認めいただければ実施をしてまいりたいということで計画をしております。

●議長（小林幸雄） 北村議員。

◆12 番（北村照明） 突然の質問で申し訳なかったんですが、大変前向きな答弁をいただきました。これで私の質問を終わります。

●議長（小林幸雄） 関連質問のある方。なしと認めます。以上で北村照明議員の一般質問を終わります。

この際申し上げます。昼食のため、午後 1 時まで休憩といたします。

(午前 11 時 48 分)